

# 「ハレルヤ・コーラス」について

## ヘンデル：オラトリオ「メサイア」

井田 泉（奈良基督教会牧師）

ヘンデルのオラトリオ「メサイア」（救世主）の歌詞は彼の友人ジェネズから提供されもので、すべて聖書の言葉です。ほとんどが欽定訳英語聖書（Authorized Version、別名 King James Version、1611）によっており、詩編のみは The Great Bible（英国教会祈祷書 The Book of Common Prayer 所収のもの＝つまり実際の礼拝で交唱される、1539）によっています。

メサイアは、第1部「メシア降臨の預言と誕生」、第2部「メシアの受難と死」、第3部「メシアの復活と永遠の命」からなりますが、ハレルヤ・コーラスはこの第2部に含まれています。

歌詞は新約聖書の最後の書物であるヨハネの黙示録第19章6節、第11章15節、第19章16節です。

Hallelujah: for the Lord God omnipotent reigneth. ... The kingdom of this world is become the kingdom of our Lord, and of His Christ; and He shall reign for ever and ever.	ハレルヤ、 主なる神、全能者が統治される。 この世の国は、われらの主と、そのキリストの国とな った。 そして主は世々限りなく統治される。
---	--

「ハレルヤ」はヘブライ語で、「ハレル」は「ほめたたえよ」、「ヤ（神の固有名詞「ヤハウエ」の短縮形）」は「神」、「神をほめたたえよ」の意味です。この言葉は詩編をはじめとして聖書に数多く出て来ます。人間の栄光ではなく、神の栄光が輝き、人間はその前に謙虚にされるのです。

ヨハネの黙示録は紀元1世紀の終わり頃に書かれました。イエス・キリストの死と復活から60年～70年後です。キリスト教は次第にローマ帝国に浸透しつつありましたが、当時ローマ皇帝は自らを神と称し、クリスチャンも皇帝を拝むように強制されることがしばしば起こりました。これに抵抗したクリスチャンは迫害され、死に追いやられることもありました。ヨハネの黙示録は、危機にさらされた信徒たちを励ますために書かれた一種の秘密文書です。

黙示録第1章によれば、教会の有力な指導者のひとりであった長老ヨハネ（イエスの弟子のヨハネとは別人）は、捕らえられて地中海のパトモス島に閉じ込められていました。

ある日曜日、ヨハネが殉教を覚悟して祈っていたとき、不思議なキリストの臨在を経験し、やがて彼の霊は天に引き上げられて、天上でささげられている壮大な礼拝を目撃することになります。そうして彼は、神の声と、天の群衆の大合唱を聞くのです。

「また、玉座から声がして、こう言った。

『すべて神の僕たちよ、神を畏れる者たちよ、小さな者も大きな者も、わたしたちの神をたたえよ。』

わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。

『ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた。

わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。』」ヨハネの黙示録 19 : 5-7

長老ヨハネが天上で聞いた礼拝の合唱の一部が、ハレルヤ・コーラスの歌詞です。

この歌詞には、巨大な帝国の権力の暴力と脅迫にさらされつつ、信仰と真実を貫こうとした信徒たちの祈りと決意がこめられています。

1743年のロンドン公演で、英国王ジョージ2世は、このハレルヤ・コーラスに感動して起立したことから、立って聞くことが慣例となりました。

ハレルヤ・コーラスを歌い、また聞くとき、私たちはこの曲の華やかさと力強さの奥にこめられた、困難のうちにある人々への共感と励ましを経験できればと願います。

(2014/12/18)